
【新刊紹介】

内田和子 著

『日本のため池 防災と環境保全』

B 5 判, 270頁

発行所：海青社（大津市）

2003年10月10日発行

定価本体：4,667円（税別）

今 村 清 光

日本のため池は、瀬戸内から近畿地方に密集して分布しており、古代から水田稲作の発展に寄与してきた。

全国のため池の総数は、農林水産省調査によれば、1955年の289,713から1989年の213,893へと減少しつつあるが、これは小規模なため池に顕著であり、大規模なため池においては、受益面積の合計が増加するなど農業用水の利用にとどまらず、多面的な機能を持つ地域資源として環境保全、親水などに活用されている。

著者によれば、ため池の環境保全機能には、生態系保全、気候緩和、洪水調節などがあり、親水機能には、水辺景観の形成、レクリエーションの場の提供などがあるという。

都市化の進展など社会経済的条件が大きく変化するにつれ、ため池は、単なる農業水利施設にとどまらず、広く地域社会全般の環境・資源になってきたと言うことであろう。

過去にあまり研究の蓄積が多くないため池の防災および環境保全を中心に広く深く研究を進め、このような大作にまとめられた著者のご努力に敬意を表したい。

この書は、四部構成となっており、第Ⅰ部では、古代から現代までのため池の歴史を、所有・管理と水利権の変遷に着目して概観している。そしてそれが、公的な管理の下にある河川とは異なり、現代においても、近世におけるとほぼ同様な形態が継続され、私権に近い概念の範疇にあるとしている。また現代におけるため池の存在形態について、農業集落の変化、農業用水源の変化、都市化によるため池の改廃などについて詳述している。

第Ⅱ部では、まだ本格的な都市化が進展しない時代の事例を中心にため池の決壊による水害について述べている。

第Ⅲ部では、地震とため池の被害について、阪神・淡路大震災における事例を中心に分析している。

第Ⅳ部では、現代のため池を取り巻く課題に対応する保全策について、例えば農業者、非農業者住民と行政が一体となって維持管理していく方策などについて検討を深めている。

主要目次は次のとおりである。

- 序論 1. 研究の視点・目的・方法
2. 既往の研究と本研究の意義

第Ⅰ部 ため池の存在形態 — 分布と改廃 —

- 第1章 わが国におけるため池の存在形態
第2章 都市化地域におけるため池の改廃
第3章 ため池の存立条件から見た農業集落の変化

第Ⅱ部 ため池の決壊による水害の地域分析 — 歴史的教訓 —

- 第4章 ため池卓越地帯における水害の事例分析
第5章 大規模ため池の決壊と浸水地域の復元
第6章 ため池の水害対策と地域の変化

第Ⅲ部 ため池と地震災害 — 阪神・淡路大震災の教訓 —

- 第7章 ため池の立地と老朽度から見た被災ため池の特色
-
-

第8章 被災ため池と貯水率との関連についての検討

第9章 被災ため池の受益地における用水不足への対応

第Ⅳ部 ため池の保全 — 維持・管理方式の再検討 —

第10章 行政によるため池の管理と保全事業

第11章 ため池の多面的機能

第12章 都市化地域における新しいため池の維持・管理方式

第13章 他目的への転用によるため池の再活用

結 論 1. 要約

2. 提言と今後の課題

((財) 水利科学研究所理事長)